

2020年度 助産学実習における助産学生の社会人基礎力の変化（第1報） オンライン実習および学内実習を通して

著者	上田 恵, 稲葉 弥恵子
雑誌名	大和大学研究紀要
巻	7
ページ	9-15
発行年	2021-03-15
URL	http://id.nii.ac.jp/1677/00000218/



2020年度 助産学実習における助産学生の社会人基礎力の変化 (第1報) —オンライン実習および学内実習を通して—

(Fiscal 2020) Changes in the basic social skills of midwife students observed in the midwifery practicals
(First report) -Through remote practicals and in-school practicals- -On line remote training and on-campus training-

上 田 恵* 稲 葉 弥恵子*

Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Yamato University
UEDA Megumi INABA Yaeko

要 旨

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行長期化に、助産学課程の臨地での実習が難しい現状である。本学では、カリキュラムをふまえ、リモートを取り入れた遠隔実習に取り組んだ。在宅実習および学内実習で学生が何を経験しているのかについて、2006年経済産業省が概念として提唱した「社会人基礎力」に着目し、助産学生の遠隔実習における社会人基礎力と看護実践能力について検証した。社会人基礎力の評価について、テキストマイニングKHで分析。その結果、学生は新型コロナウイルス感染拡大防止の状況渦であるが、在宅実習、学内実習を通して、社会人基礎力の【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】の3つの能力についてさまざまな経験をしていることが示唆された。

Abstract

Due to prolongation of a novel coronavirus disease (COVID-19), it is difficult at the present stage to fully conduct the on-site practicals for midwife students. In our university, we implemented a remote midwifery practical based on the curriculum. In order to know what the midwife students have experienced through the at-home and in-school practicals, we focused on the concept "Basic social skills" proposed by the Ministry of Economy, Trade and Industry in 2006, and surveyed their basic social skills and their nursing capability in the remote practicals. The basic social skills were analyzed by the Text mining KH Coder. As a result, it was suggested that the students had experienced variously about the three basic social skills such as "Action", "Thinking", and "Team-work" through the at-home and in-school practicals although they were under the situation that everyone has to prevent spread of COVID-19.

キーワード：社会人基礎力、助産学生、新型コロナウイルス感染症、リモート実習

keywords: basic social skill, midwife student, COVID-19, remote practical

I. はじめに

文部科学省において「2011年に大学における看護系人材育成の在り方に関する検討会」報告書が取りまとめられ、さらに2017年同検討会にて「卒業学生が大学との職場との乖離の解消や根拠にもとづいた実践能力の課題を解決していく必要がある。」と述べている。¹⁾

そのような中で昨年度末より新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大により、多くの教育機関で2020年度の助産学実習が中止・延期となり、助産師教育にも大きな影響を及ぼしている。文部科学省と厚生労働省が連名で「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の対応について」の通知があった。実習施設の確保が困難な場合には「実習に代えて演習または学内実習等

を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えない」ことが示された。²⁾

本年度中、分娩介助数が10例を満たせないことを想定した対策として、本来であれば臨床の場で修得すべき能力を在宅実習でのオンラインによる複数の助産課程事例展開の検討を行った。さらにコロナウイルス感染拡大防止が小康状態となった機にソーシャルディスタンスに配慮しつつ学内実習で事例をふまえながら保健指導のロールプレイングおよび安全な助産技術、分娩介助の技術演習をすすめた。本大学において、助産学生が臨地実習を行いたいと強い要望を示したため、国家試験後も実習が可能となるよう、実習期間を延長し、分娩介助を経験することが可能となる方向で実習計画をすすめた。基

*大和大学保健医療学部看護学科

令和2年11月5日受理

礎学力や専門知識に加えて、それらをうまく活用していくための社会人基礎力を意識的に育成していくことが今まで以上に重要である。³⁾そして実践能力の向上のため、学生の現状を把握した教員の指導が求められる。

そこで2006年経済産業省が概念として提唱した「社会人基礎力」⁴⁾に着目し、助産学生の遠隔実習における社会人基礎力と看護実践能力について検証を行う。新型コロナウイルスの影響のなかでの教育の取り組みについての文献はみられるが⁵⁾、学生の学びの状況についての報告はみられない。そこで、社会人基礎力と看護実践能力の検証を行ったので以下に述べる。今後さらに助産実習での学生への指導へとつなげていく。

II. 方法

1. 研究目的

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行長期化のなか、臨地での実習が難しい現状であった。本学において、カリキュラムをふまえた教育内容を検討し、リモートをとりにれた実習に取り組んでいる。2020年度の助産学実習受け入れの中止および延期に伴う実習代替案として、学内実習を通して臨床の場で修得すべき“助産過程の展開と安全な分娩介助技術を習得するための理論・知識・技術・態度”を到達が可能な学内実習案を提示した。また、本大学においては、助産学実習が3月から開始。このような状況下において、助産学生の社会人基礎力および実践能力の向上のため、学生の現状を把握した教員の指導が求められる。遠隔授業による在宅実習および学内実習による教育の取り組みのなかで、助産師課程における学生の学びの状況について、2006年経済産業省が概念として提唱した「社会人基礎力」⁴⁾に着目し、助産学生の遠隔実習における社会人基礎力と看護実践能力について検証を行う。社会人基礎力と看護実践能力の検証を行い、在宅実習および学内実習における助産学実習での学生への指導に繋げていく。

2. 研究方法

本研究は、本年度の助産学実習をととして、社会人基礎力の向上が見られるか、12項目の社会人基礎力の要素を活用。社会人基礎力の項目評価を“できない”から“できる”までの5段階評価を作成する。また、評価した項目についてそれぞれ理由を自由記載とした。実習前半（8月）、実習後半の2時点で質問紙調査を実施。社会人基礎力の評価を数量的・定性的データ両者を統合し、影響した項目について分析を行った。

1) 研究対象と調査期間

本学在籍中の看護学科助産師課程専攻の学生12名。「2020年度助産学実習における社会人基礎力評価」に関する研究に同意を得られた12名を対象とした。質問紙の回答率は100%であり、欠損値や未記入等は無かつ

た。研究調査期間は、倫理審査委員会承諾後から令和2年11月とした。

2) 研究方法

オンラインでの在宅実習による実習形態および新型コロナウイルス感染拡大防止の状況を見ながら感染防止に配慮した学内実習下で以下の方法での研究調査協力の説明をおこない、研究協力の同意を得られた対象に対して質問紙調査を実施。

- (1) 倫理審査承認後に研究協力の説明および同意を得る。同意を得られた参加者について実習前半（8月）在宅実習終了時（リモート実習終了時）の状況を想起してもらい、質問紙調査を実施。
- (2) 倫理審査承認後に研究協力の説明および同意を得る。研究協力の説明を再度行い同意を得られた参加者について実習後半（9月）学内実習終了時の状況を想起してもらい、質問紙調査を実施。

3) 質問紙調査項目と分析方法

(1) 質問紙調査項目

- ①対象者の属性：平均年齢22歳 女子大生
- ②社会人基礎力の評価

12要素の自己評価表のスコアと加えて12要素の根拠についての根拠を自由記載で回答
経済産業省からの提示されている3つの能力、12の能力要素および岐阜大学医学部看護学科の社会人基礎力能力評価表を参考とした⁶⁾。【3つの能力】と「12の能力要素」とは、①【前に踏み出す力（アクション）】〔主体性、働きかける力、実行力〕②【考え抜く力（シンキング）】〔課題発見力、計画力、創造力〕③【チームで働く力（チームワーク）】〔発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力〕の3つの能力、12の能力要素で構成される。5段階評価の自己評価と12の能力要素に対してのその根拠を自由記載とした。（表1参照）

(2) 分析方法

本研究では、数量的・質的データの両者を統合したミックスメソッドによる研究デザインとする。また、看護学生を対象とした社会人基礎力に関する先行研究との比較を行い、整合性を追求する。自由記載の内容についてはテキストマイニングを使用し分析、社会人基礎力の評価については、12要素の項目を5段階の自己評価による平均点を算出。次に、社会人基礎力の評価12要素の項目ごとに自由記載を設けた。自由記載の分析として、フリーソフトであるKHCoder（Ver.3.0）を用いて、計量テキスト分析を行った。分析手順としては⁷⁾、自由記述をKHCoderにて単語および複合語の出現頻度を算出。分析対象の抽出語の出現した延べ数（総抽出語）の頻度上位10語を抽出。続いて抽出語の関連語との共起ネットワーク分析

を実施。抽出語で頻出回数が増えると円が大きくなる。また、それぞれの円を結ぶ線は語と語の関連性を表し、文中の接近した場所に表出され、強い共起関係ほど線は強くなることを表す。

3. 倫理的配慮

本調査の実施にあたっては、大和大学倫理委員会の承認を得た。(承認番号R2001)、研究対象者に研究の概要、対象者の権利、個人情報保護などについて口頭および文書で説明を行った。質問紙調査は自由参加とした。成績評価とは一切関係がなく、調査への参加、不参加による研究対象者への不利益が生じないように、実習中も教員は対応を留意しながら実習をすすめること、回答結果は研究目的のみに使用することを説明した。

Ⅲ. 結果

1. 社会人基礎力の評価

2020年度助産学実習において、在宅実習後および学内実習における質問紙調査結果は社会人基礎力の12項目を表2に示す。在宅実習および学内実習中である助産学実習専攻中の学生12名中、同意を得られた12名を対象とした。「社会人基礎力」の12項目の自己評価で、規律性が最も高かった。次いで、ストレスコントロール力、3位は、学内では傾聴力、在宅では柔軟性であった(図1参照)。平均点をレーダーチャートで示した結果では、規律性・柔軟性・状況把握力について、在宅実習と学内実習の違いが僅かに見られ在宅と比較すると、いずれも学内の方が高かった(図1参照)。

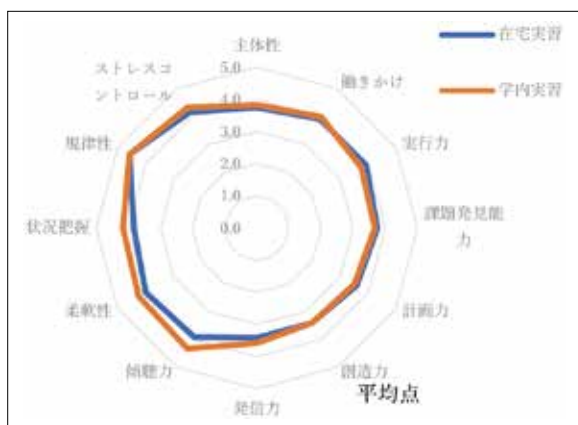


図1 在宅実習および学内実習における社会人基礎力自己評価(12要素)

2. 社会人基礎力の評価 自由記載の分析

「社会人基礎力の評価シート」の12要素の各項目における3つの能力要素【①前に踏み出す力(アクション)】、【②考え抜く力(シンキング)】、【③チームで働く力(チームワーク)】における自由記載の分析結果について以下の結果となった。

1) 「社会人基礎力の評価シート」の12要素の各項目における3つの能力要素の各要素の頻出語について

【チームで働く力】の頻出語数は最も多かった。在宅実習では200語で「意見」「自分」「実習」「相手」「考える」といったものが抽出された。学内実習では頻出語数は200語で「実習」「学内」「行動」「自分」といったものが抽出された。(表2参照)

【考え抜く力】の頻出語数は2番目に多かった。在宅実習では185語で「自分」「実習」「在宅」「計画」「考える」「計画」「課題」といったものが抽出された。学内実習では頻出語数は124語で「実習」「学内」「意見」「技術」「考える」といったものが抽出された。

【前に踏み出す力】の頻出語数は3番目であった。在宅実習では149語で「実習」「在宅」「自分」「メンバー」「行動」「考える」といったものが抽出された。学内実習では頻出語数は121語で「学内」「実習」「メンバー」「積極」「行う」「技術」といったものが抽出された。

2) 「社会人基礎力の評価シート」の12要素の各項目における3つの能力要素の各要素の共起ネットワークについて(図2、図3参照)

【チームで働く力】について

共起関係より、在宅実習では頻出語がすべて線でつながっている配置で構成されていた。「考える」「意見」「相手」「聞く」「伝える」は頻出回数が多い語で円が大きく描写されている配置の描写となっていた。また「考える」「意見」「相手」「聞く」「伝える」といった語のつながりが重なりあっている配置の描写となっていた。学内実習では2語から18語の9群で構成されていた。「役割」「行動」「ストレス」「気晴らし」といった語のつながりが重なり合っている配置の描写と「受け止める」「修正」「言葉遣い」「果たす」といった語が線のつながりで近い描写となっていた。また「指導」「ルール」「意識」「聞く」といった語のつながりが近い配置の描写や「理解」「話す」「心がける」「メンバー」といった語が線のつながりで近い配置となっている描写となっていた。

【考え抜く力】について

共起関係より、在宅実習では2語と43語の2群で構成されていた。43語が線でそれぞれつながっている描写の群については「考える」「課題」「計画」といった語のつながりが近い配置の描写となっている。さらに「展開」「場面」「やり遂げる」「頑張る」といった語と線でつながっている配置の描写となっていた。次に学内実習では、2語から26語の3群で構成されていた。26語が線でそれぞれつながっている描写の群については、語のつながりが近い配置の描写が広がりをもつ配置描写に変化していた。具体的には「課題」「努力」「目標」「アイデア」が近い配置の描写や「技術」「解決」「必要」が近い配置の描写、「時間」「行動」「考える」が近い配置の

描写であり、それぞれが線で結ばれている描写となっていた。次に8語が線でそれぞれつながっている描写の群については、「知識」「演習」「分娩」「新生児」「不十分」が近い配置の描写であり、それぞれが線で結ばれている描写となっていた。

【前に踏み出す力】について

共起関係より、在宅実習では3語から24語の3群で構成されていた。それぞれの群について「自分」「メンバー」「考える」といった語のつながりが近い配置の描写となっている。さらに「展開」「場面」「やり遂げる」「頑張る」といった語と線でつながっている配置の描写となっていた。次に、「課題」「目標」「発信」「カンファレンス」といった語のつながりが近い配置の描写となっていた。さらに「わかる」「聞く」「積極」「働きかける」といった語と線でつながっている配置の描写となっていた。学内実習では、39語がすべて線でつながっている群となっていた。「実習」「学内」「メンバー」の頻出回数が多数では円が大きく描写され、近い配置の描写となっていた。さらに「技術」「分娩」「積極」「協力」と線でむすばれ広がりがある配置描写に変化していた。具体的には、「積極」「目的」「実施」が近い配置の描写、「目標」「設定」「取り組む」が近い配置の描写、「技術」「分娩」「チェック」が近い描写、「知識」「協力」「意見」「全員」が近い配置の描写であり、それぞれが線で結ばれている描写となっていた。

IV. 考察

1. 助産学実習における在宅実習および学内実習での社会人基礎力の変化について

他の研究との比較であるが、学生の学びの状況の報告が見られなかったことについて、今回の著者らのリーダーチャートの結果から(図1)、助産学生の状況把握力が在宅での実習より学内実習の方で若干ではあるものの、平均点が高かった事は、特記すべき点であると考え。このことは、今後、臨地実習を経験した学生の方が、状況把握力が更に向上する可能性があることを示唆していると考え。今回の結果では対象の学生が12名と少なかったため、確実なことは述べられないが、コロナ禍で臨地実習に行けない学生が、質問紙調査前に学内で実施した実技試験などの演習が状況把握力に影響を与えた可能性があると考え。今後は調査対象の学生数を増やして、追跡調査を行っていく必要があるのではないかと考えられた。

このことは、文部科学省の大学における看護系人材育成の在り方に関する検討会で述べられているように、卒後の学生と職場との乖離の解消や根拠にもとづいた実践能力の課題に対し、解決策に繋がるかも知れない。次に、自由記載についてテキストマイニングを使用した共

起ネットワーク分析結果から、次のようなことが考えられた。(図2、図3参照)

1) チームで働きかける力

看護教育において、「発信力」は指導者・教員との指導場面や、グループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる力とされていた。⁶⁾ また在宅実習では、すべての語群が線でつながっており、学生はカンファレンスを通して「発信力」を発揮しているのではないかと考える。また学内実習では「柔軟性」である自らの考えに囚われることなく、意見の違いを理解し、円滑な議論を通して最終的には決まった方針に、最善の結果がでるように努力することができる力⁶⁾を保健指導や分娩助産技術演習をとおして経験し、チームで同じ目標を達成しようと努力していたと考えられた。

2) 考え抜く力

先行文献で新野らは¹⁾、考え抜く力を習得する上で、「課題の発見」「意見交換を通じた学びの深化」「目標達成に向けた工程の意識化」の経験がされていることを明らかにしている。本研究においても共起ネットワーク分析にて「考える」「課題」「計画」といった語のつながりが近い配置の描写となっていた。さらに「展開」「場面」「やり遂げる」「頑張る」といった語と線でつながっている配置の描写となっており、学生は考えることが多い実習となったのではないかと考える。

3) 前に踏み出す力

「主体性」は看護教育において、看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に取り組むことができる力である⁶⁾と解釈できるが、共起ネットワーク分析での「前に踏み出す力」の分析結果より、「自分」「メンバー」「考える」といった語のつながりが近い配置の描写となっていた。さらに「展開」「場面」や「やり遂げる」「頑張る」といった語と線でつながっている描写となっていたことで、目標達成に向け、主体的に取り組む、カンファレンスでグループで発信し、今回の在宅実習および学内実習で、やる気がみられ、前に踏み出すとする力を経験したのではないかと考える。しかしながら、社会に出て自主性が発揮できるかと言えば、3年次の臨地実習以降、臨地実習の経験が無い学生の自主性について述べるに至らないものと考え。

以上本研究では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行長期化に、臨地での実習が難しい現状であるなか、カリキュラムをふまえた教育内容として、リモートを取り入れた実習に取り組んだ。コロナ禍のなかで、在宅実習および学内実習で学生が何を経験しているのかについて、社会人基礎力の3つの能力評価より示唆することができた。我々教員は在宅実習や学内実

習であっても、実技試験を実施する等、臨床に近い環境を作り、状況把握力の向上や社会に出たときに困らないよう、自主性を伸ばすような実習を工夫すべきであることがわかった。

2. 本研究の限界と今後の課題

本研究の限界としては、研究対象者人数が12名であり数量的分析に限界があった。しかし、コロナウイルス感染拡大防止の状況における助産学実習での社会人基礎力の向上にむけ、今後経時的に継続した比較検討調査をすすめ分析検証を行っていききたい。

V. 結語

コロナウイルス感染拡大防止の状況下であるからこそ、卒業後、助産師として求められる主体的な発展やスムーズな職場適応が期待される社会人基礎力の育成が重要となる。今学生が経験していることを踏まえるために客観的に測定できることは、成長を促す関わりの一助となると考える。

利益相反 (COI) : 本論文に関して開示すべき利益相反状態は存在しない。

謝辞: 本研究を実施するにあたりご協力いただきました対象者の皆様に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 新野由子, 糸井和佳, 清野純子他: 看護学士課程1年生の社会人基礎力の変化 第1報, 帝京科学大学紀要, Vol15, pp1-9, 2019.
- 2) 助産学実習 2020 学内実習指針 (一般公開), 全国助産師教育協議会, 2020. 6.
- 3) 山下順子: 新人看護師教育における社会人基礎力育成研修の評価, 山口医学, Vol67 (1) pp5-13, 2018.
- 4) 教育改革ing, 社会人基礎力, ガイドライン (4月・5月) pp34-35, 2010.
- 5) 「新型コロナウイルスの影響と教育の展望」, 看護教育, Vol61, No8, 医学書院, 2020.
- 6) 箕浦とき子: 看護職としての社会人基礎力の育て方 (第2版), 日本看護協会出版会, pp250-251, 2018.
- 7) 青木信一: 特別活動における「笑育」の取り組みがキャリア発達に及ぼす効果, 佛教大学院紀要, 48 (3), pp7-10, 2020.

参考文献

- 1) 大岡裕子: 看護師の社会人基礎力の現状と課題, 日本看護研究学会雑誌, Vol37,

No3, 2014.

- 2) 西村礼子: オンライン教育の基本と実践, 看護教育, 医学書院, Vol61, No6, 2020.

＜表 1＞2020 年助産学実習における社会人基礎力の変化

「自己分析シート」

社会人基礎力の分類	現在のレベル	評価の根拠（具体的な行動を記載）
①主体性： 物事に進んで取り組む力	1・2・3・4・5	
②働きかける力： 他人に働きかけ巻き込む力	1・2・3・4・5	
③実行力： 目的を設定し、確実に実行する力	1・2・3・4・5	
④課題発見能力： 現状を分析し、 目的や課題を明らかにする能力	1・2・3・4・5	
⑤計画力： 課題の解決に向けたプロセス を明らかにし、準備する力	1・2・3・4・5	
⑥創造力： 新しい価値を生み出す力	1・2・3・4・5	
⑦発信力： 自分の意見をわかりやすく伝える力	1・2・3・4・5	
⑧傾聴力： 相手の意見を丁寧に聴く力	1・2・3・4・5	
⑨柔軟性： 意見の違いや立場の違いを理解する力	1・2・3・4・5	
⑩状況把握力： 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	1・2・3・4・5	
⑪規律性： 社会のルールや人との約束を守る力	1・2・3・4・5	
⑫ストレスコントロール力： ストレスの発生源に対応する力	1・2・3・4・5	

【基準のレベル】

5：行動が十分に発揮できた（達成度 80%以上） 4：行動が概ね発揮できた（達成度 60～80%）
 3：行動が発揮できる時とできない時がある（達成度 40～60%） 2：行動が部分的に発揮した（達成度 20～40%） 1：行動が部分的に発揮した（達成度 20%以下）

＜表 2＞社会人基礎力 3 つの要素頻出語一覧表

前に踏み出す力（アクション）		考え抜く力（シンキング）		チームで働きかける力（チームワーク）	
在宅実習	学内実習	在宅実習	学内実習	在宅実習	学内実習
出現 抽出語 回数	出現 抽出語 回数	出現 抽出語 回数	出現 抽出語 回数	出現回 数 抽出語	出現回 数 抽出語
実習 16	実習 15	実習 29	実習 15	意見 20	実習 15
在宅 14	学内 13	計画 15	学内 13	自分 19	学内 13
自分 14	メンバー 8	考える 15	意見 5	実習 17	行動 12
メンバー 9	行う 7	自分 15	技術 5	相手 17	自分 12
行動 7	積極 6	課題 13	考える 5	考える 16	ストレス 8
考える 6	技術 5	学内 13	行う 5	在宅 13	意見 8
分かる 6	スピード 4	在宅 13	必要 5	聞く 13	相手 8
聞く 6	介助 4	メンバー 9	課題 4	メンバー 10	守る 7
目標 5	協力 4	意見 9	計画 4	伝える 9	理解 7
課題 4	自分 4	行う 8	自分 4	ストレス 7	意識 6
行う 4	達成 4	必要 8	アイデア 3	見る 7	項目 6
カンファ レンス 3	動く 4	取り組む 7	メンバー 3	行う 7	役割 6
スピード 3	分娩 4	目標 7	項目 3	行動 7	話す 6
意見 3	学習 3	立てる 7	今 3	心掛ける 7	メンバー 5
項目 3	項目 3	アイデア 6	根拠 3	人 7	指導 5
取り組む 3	実施 3	根拠 6	時間 3	努力 7	心掛ける 5
積極 3	取り組む 3	取り入れ る 6	実施 3	カンファ レンス 6	伝える 5
先生 3	進める 3	順位 6	進める 3	項目 6	聞く 5
展開 3	多い 3	優先 6	知識 3	話す 6	マナー 4
働きかけ る 3	知識 3	アセスメ ント 5	目標 3	時間 5	ルール 4
動く 3	努力 3	解決 5		質問 5	気晴らし 4
発言 3	目標 3	技術 5		周り 5	考える 4
判断 3		教科書 5		常に 5	深める 4
役割 3		指導 5		発表 5	相づち 4
		実施 5		力 5	分かる 4
		情報 5			

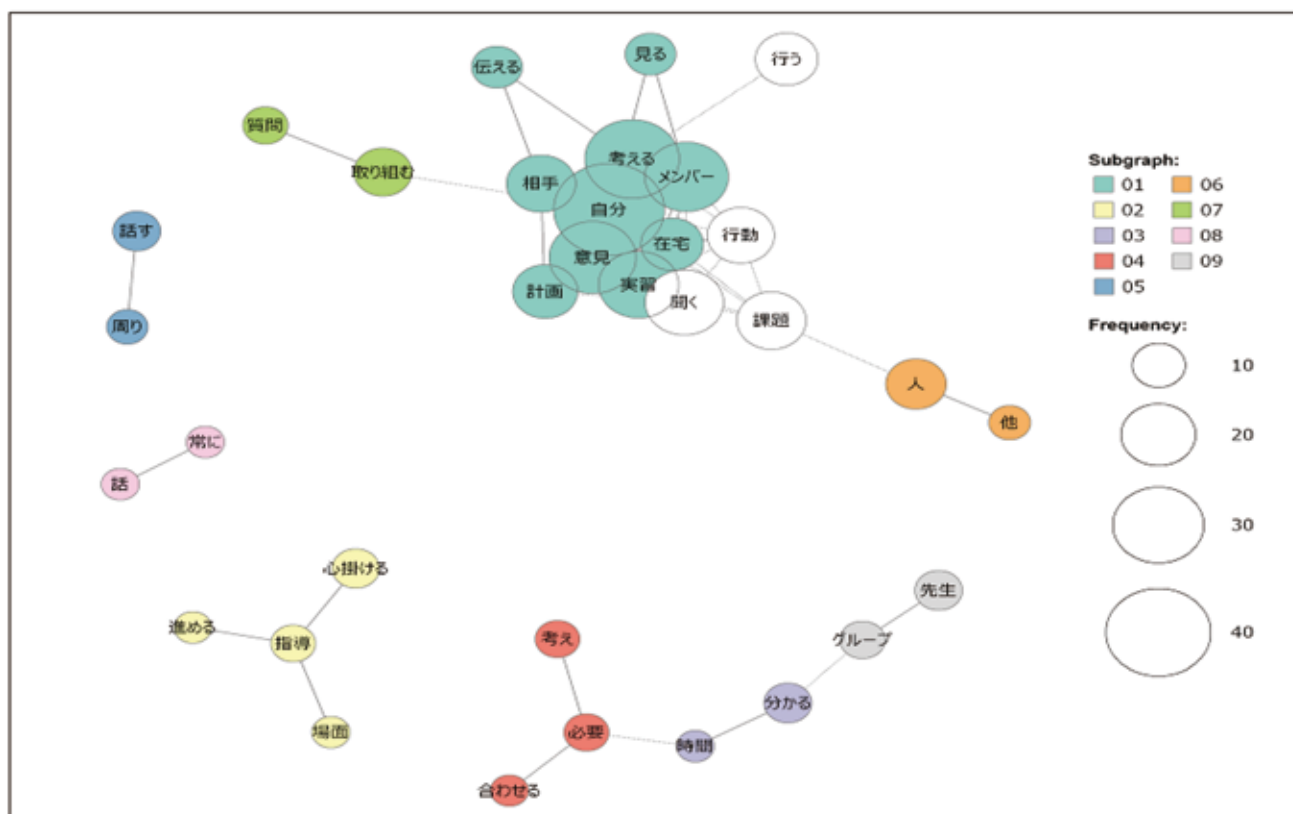


図2 在宅実習（全体） 共起ネットワーク

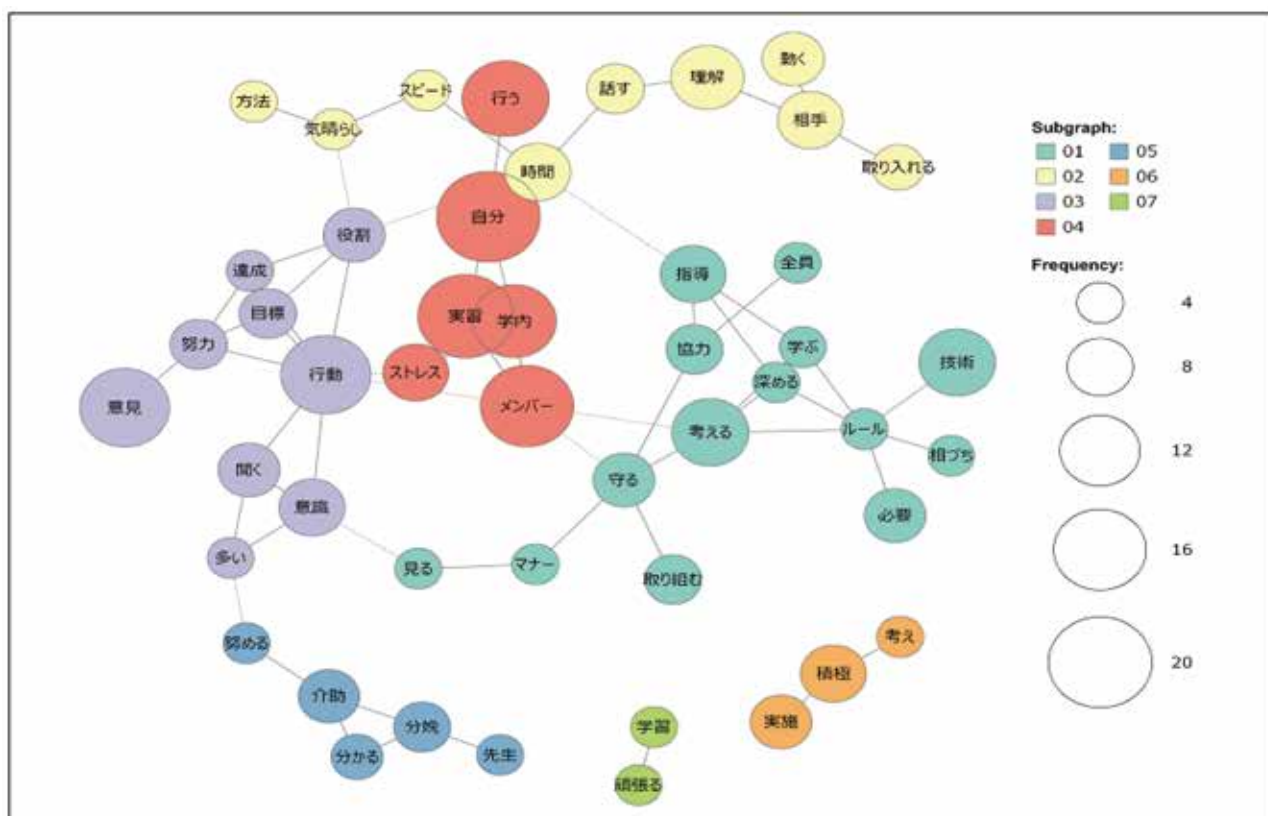


図3 学内実習（全体） 共起ネットワーク